



会長記者会見

Co-creation

-共創とイノベーションで築く、医療の未来と新しい価値-

2025年5月22日
日本製薬工業協会
会長 宮柱 明日香

1

はじめに

2

就任抱負

「価値共創」～日本国民と目指したいヘルスケアの未来～

3

「継承」と「変革」

～製薬協のビジョンを未来へ～

1968年創立から続く
「**患者参加型医療**」を実現しながら
革新的な新薬の創出を通じて**世界の医療に貢献**していく

創立当時の事務所

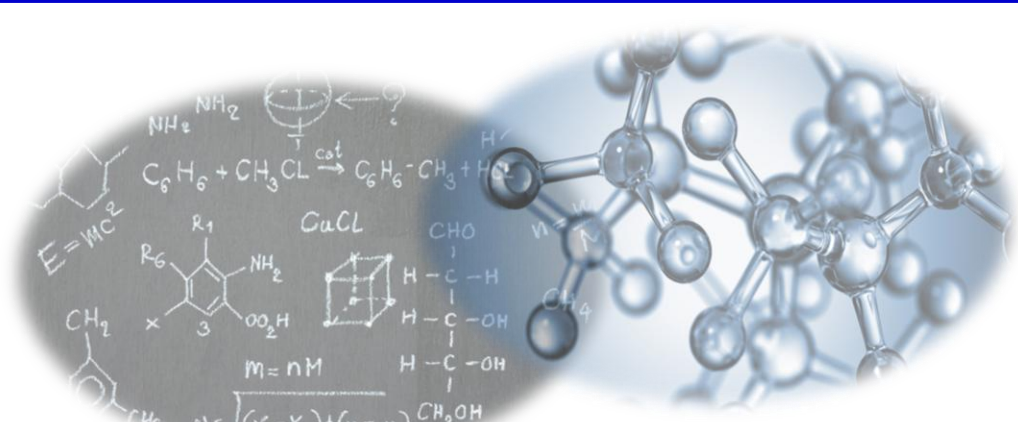


初代会長 武田長兵衛



総会の様子





多様性 = 科学

異なる要素が出会い、新しい価値を生み出す力になる



1

はじめに

2

就任抱負

「価値共創」～日本国民と目指したいヘルスケアの未来～

3

「継承」と「変革」

～製薬協のビジョンを未来へ～

日本のあるべき医療の姿とは？

国民皆保険



フリーアクセス

超高齢社会



働き手の減少

超高齢社会の先進国として「日本型医療モデル」を確立

技術革新



AI診断

医師偏在



医療格差

「国民・患者さんの健康向上」を価値の起点に「経済」や「社会」への貢献を実現していく

国民・患者さんの 健康への貢献



- 投資・先端技術で革新的医薬品を創出し、安定的に供給
- 患者さんの治療成績が向上

経済成長への貢献



- 医薬品の価値が正しく評価され、適切に財源が配分
- 創薬・開発投資が適正化され、医薬品産業が経済発展に貢献

社会への貢献



- 医療全体のリソースと治療成績が「見える化」される
- 医療観点のイノベーションが継続

価値実現に求められるCo-creation（共創）

未来の「医療のあるべき姿」を創り出すために、産業内外との連携を行い価値を共創していく



対話

医療・医薬品をとりまく現状の理解

相互理解

国民を含む各ステークホルダーの
「できること」を共有

共通課題の解決

課題解決に向けた
ステークホルダー横断でのアクションの推進

日本における医薬品産業のこれまでの貢献

国民の「健康」への貢献

社会的課題となる疾患に対する
治療薬の創出

感染症

生活習慣病

がん

認知症

精神疾患（うつ等）

希少疾患治療への取組

QOL向上への取組

医薬品アクセス:国内承認新薬数¹
(2019-23年)

670品目
(2014-18年: 562品目)

国民の健康改善: 全がん5年相対生存率²
(2009-11年診断)

64%
(1993-96年診断: 50%)

国民の健康改善: 寿命延伸（男女平均）³
(2020年)

85歳
(2000年: 81歳)

国の「経済成長」への貢献

医薬品産業の粗付加価値額（GVA）：
(実質, 2020年)⁴ GVA: Gross Value Added

5.2兆円
(2016年: 3.9兆円)

雇用者一人当りの粗付加価値額（GVA）：
(実質, 2020年)⁵

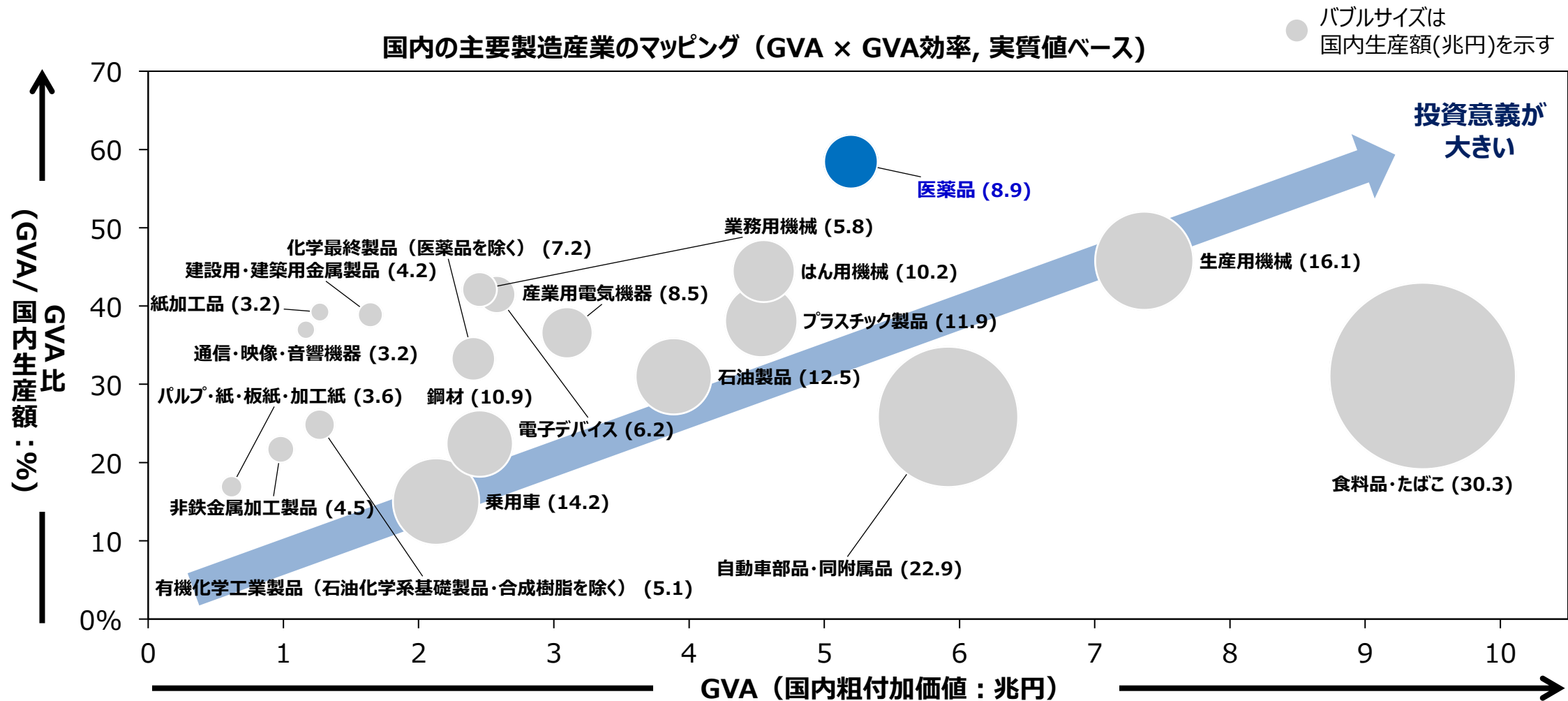
37百万円
製造業平均 13百万円
(2016年: 24百万円)

出所: 1) 医薬産業政策研究所「日米欧の新薬承認状況の比較」; 2) 国立がんセンターHP_地域がん登録によるがん生存率データ (1993年-2011年診断例) ; 3) 厚生労働省「完全生命表」

4) 経産省「延長産業連関表_平成27年 (2015年) 基準」の2020年統合分類 実質値データ; 5) 経済産業省「延長産業連関表」、e-stat「医薬品産業実態調査」

医薬品産業は日本の成長を担う基幹産業

医薬品は国内生産額に占めるGVA額が高く、投資意義が大きい



日本の医薬品産業を取り巻く課題

研究開発～生産・製造～承認・償還の各フェーズにおける課題を解決することでさらに価値を高める

研究開発（創薬）

生産・製造

承認・償還（制度）

創薬力の低下傾向

創薬力¹

2023年

世界6位

経済安全保障リスク

国内医薬品

海外輸入割合²

7割

予見性の低い市場

国内医薬品市場の年平均成長率

2015～2024年の10年間³

+0.4%

出所：1) 創薬カランク 出所：Copyright© 2025 IQVIA. IQVIA World Review Analyst, Data Period 2023, IQVIA Pipeline & New Product Intelligence, Evaluate Pharma®（2024年11月時点）、Clarivate Cortellis Competitive Intelligence を基に医薬産業政策研究所にて作成（無断転載禁止）

出典：医薬産業政策研究所 政策研ニュースNo.71（2024年3月）

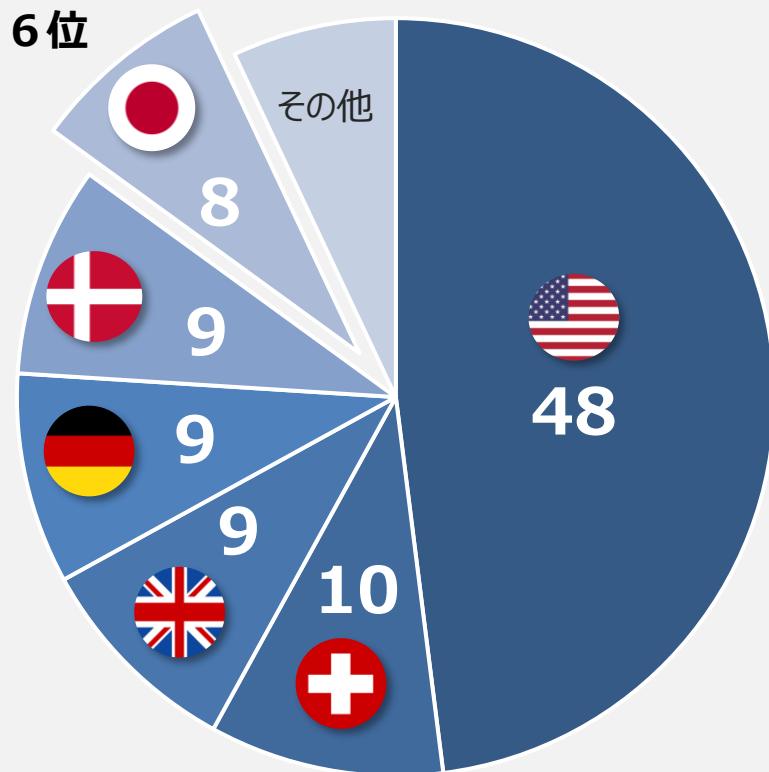
2) 主成分の数において国産より輸入の割合が多い医薬品または、外国製造業者が最終製造工程及び包装・表示工程を行った上で輸入した医薬品

3) Copyright©IQVIA. JPMを基に作成（無断転載禁止）

日本の創薬力の現状

「製薬業界からアカデミア等への目利き支援・ノウハウ共有」「グローバルヘルスケアVCの誘致」が重要

創薬力ランク (品目数)
2023年



諸外国の取組から得られる示唆
(アメリカ、スイス等)

研究

- アカデミアと企業/VC間の人材交流・支援、市場ニーズに基づく研究の推進
- 産学官交流機会、官民連携イノベーション拠点の設立、橋渡し研究の支援

産学連携
による

市場ニーズ視点での目利き

臨床 実用化

- 国際市場に精通し、ヘルスケアに特化したファンドによる投資
- グローバルVC中心の支援で、研究初期から世界市場を見据えて繋ぎこみ

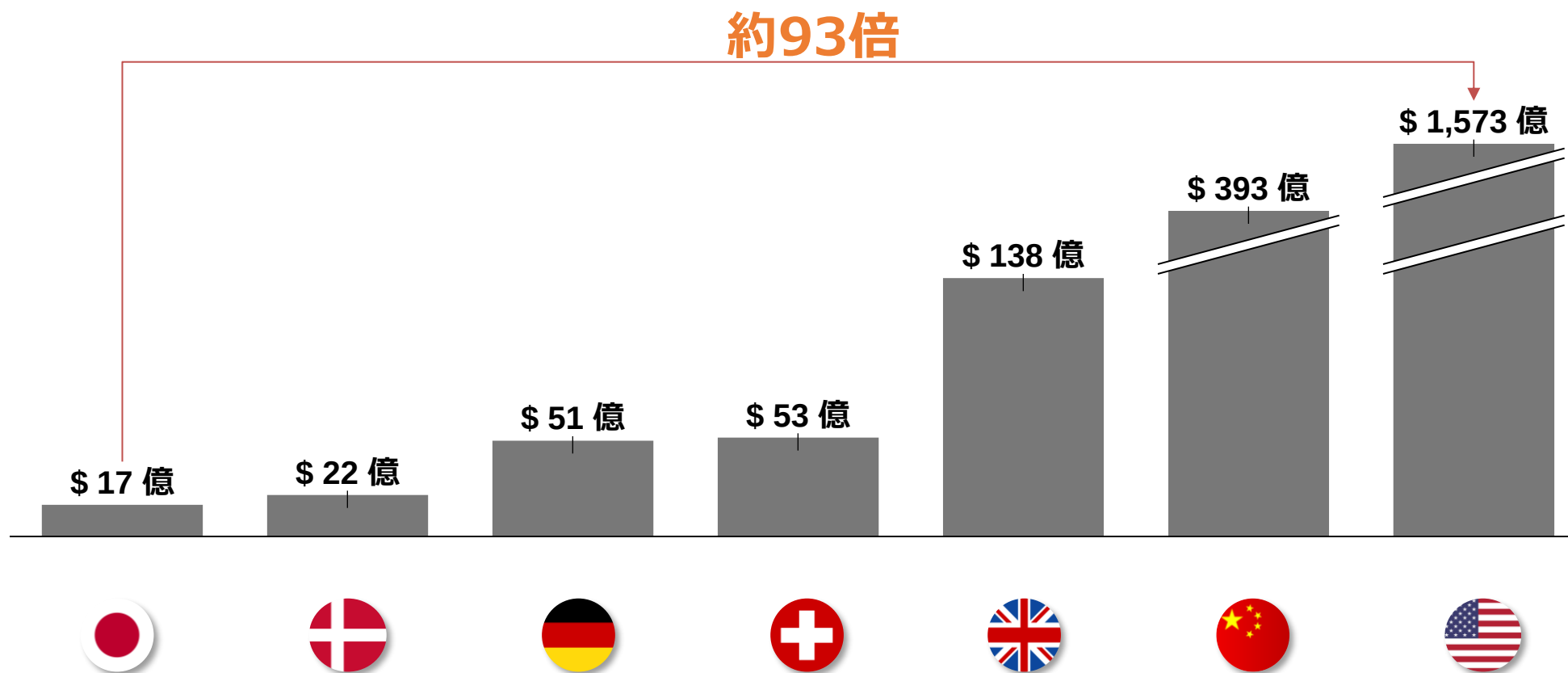
グローバルヘルスケアVC誘致
による

国内外からの投資呼び込み

ベンチャーキャピタルによる投資規模の国際比較

過去10年間の日本におけるバイオフーマへのVCの投資規模は小さい

バイオフーマへのVCディール総額（2014-2024）



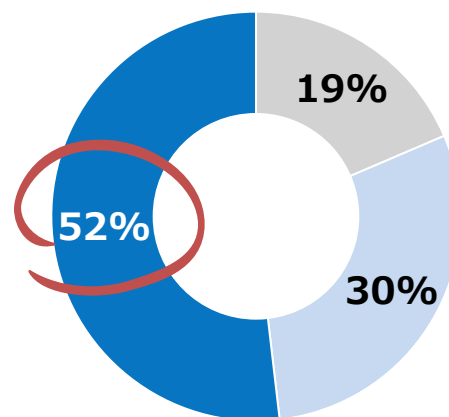
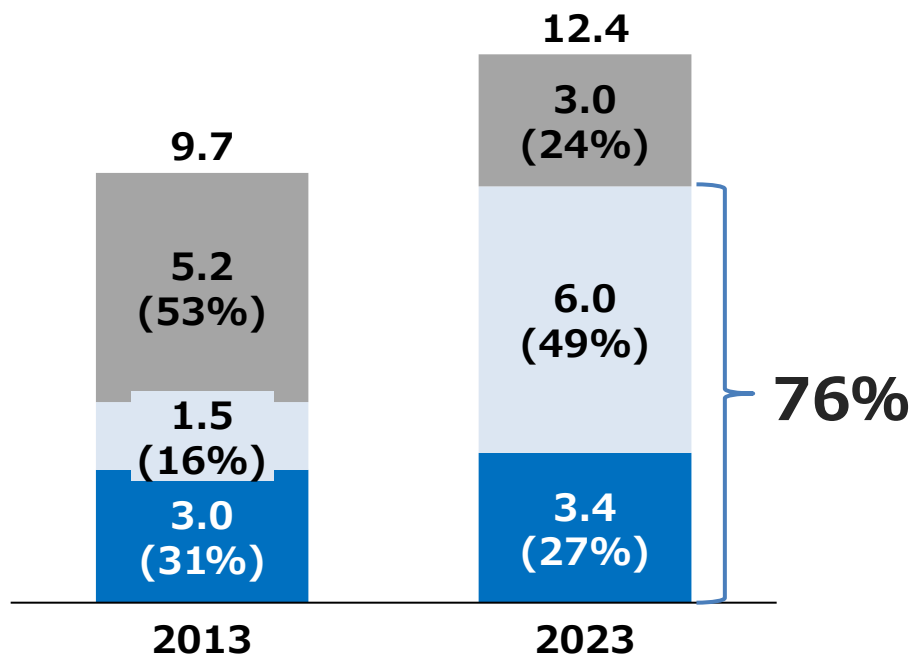
国内医薬品供給の海外依存

経済安全保障リスクを鑑み、国内生産強化の推進が求められる

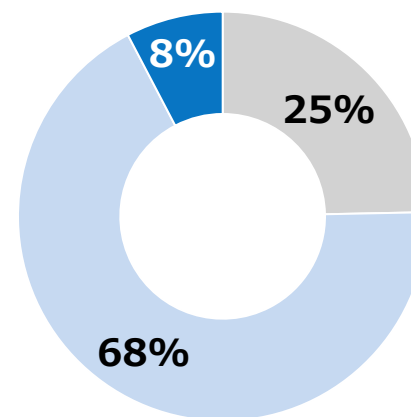
日本の医薬品供給額に占める海外への依存状況

剤型分類別（2023）

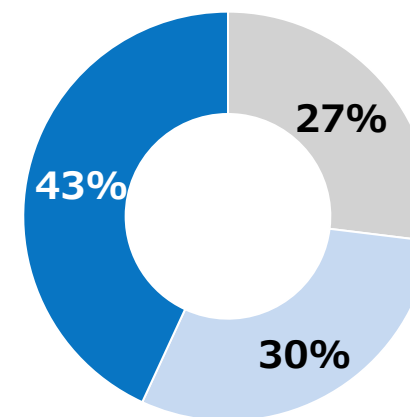
単位: 兆円 ■ 国産¹ ■ 輸入生産² ■ 最終製品輸入³



注射剤 (液剤/粉末剤)



経口剤



その他⁴

求められるバイオ医薬/新規モダリティの生産機能誘致

生産機能の強化を通じて経済安全保障上のリスクヘッジと経済成長を実現する

今後のバイオ医薬品/新規モダリティ

需要拡大

- 低分子からバイオ医薬や新規モダリティの開発へ移行

海外生産の 拡大

- 生産機能・人材が海外依存
- 低コストにより海外製造が進む

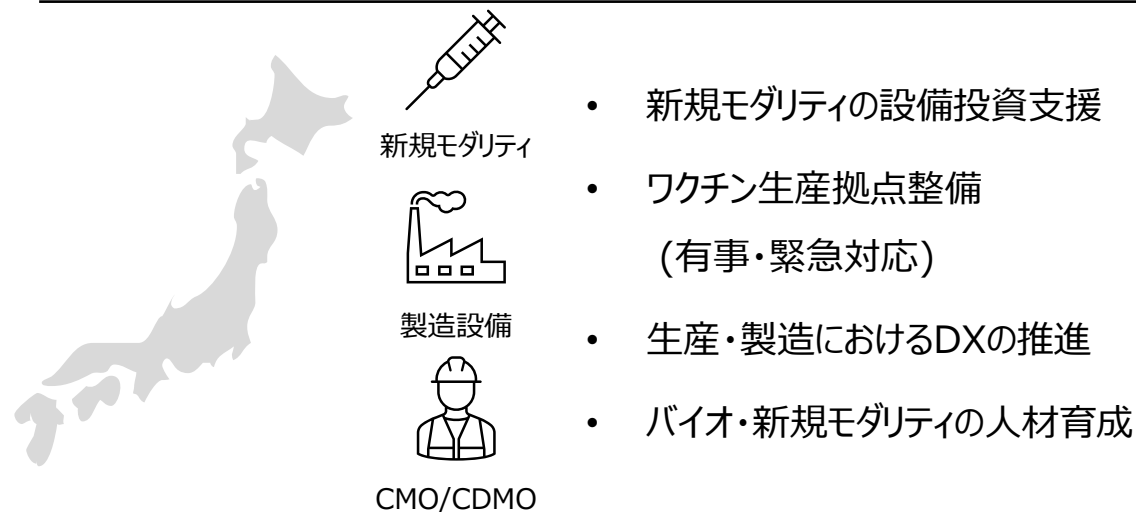
過度な海外 依存のリスク

- 製造工程における**品質担保**
- 供給における**地政学的リスク**

高品質な医薬品の製造拠点として世界に貢献

- 国際競争力を強化
- 地域経済の活性化と雇用創出

国内で継続して強化すること

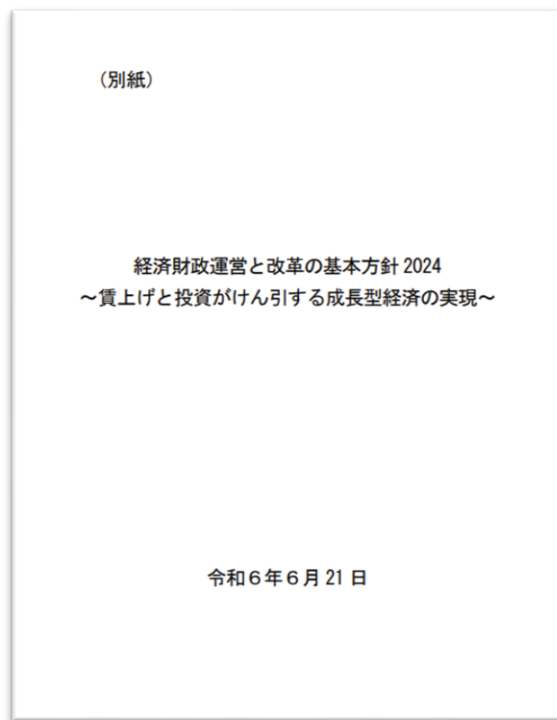


社会保障費のシーリング

社会保障費は高齢化の伸び相対に抑制されており、その多くは薬剤費から捻出

骨太方針「目安対応」

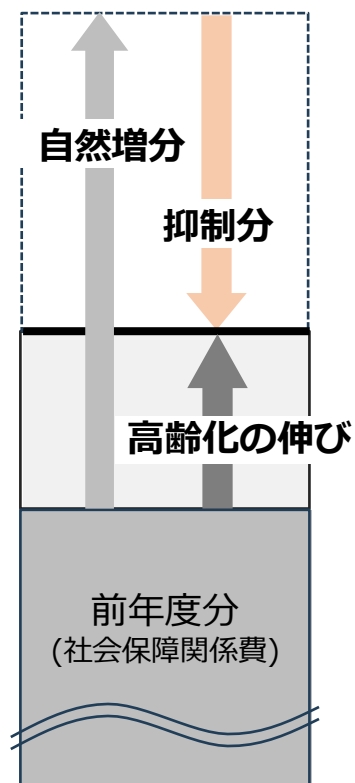
2025～2027年度までの3年間
歳出改革努力（目安に沿った予算編成）を継続



出所：財務省・内閣府

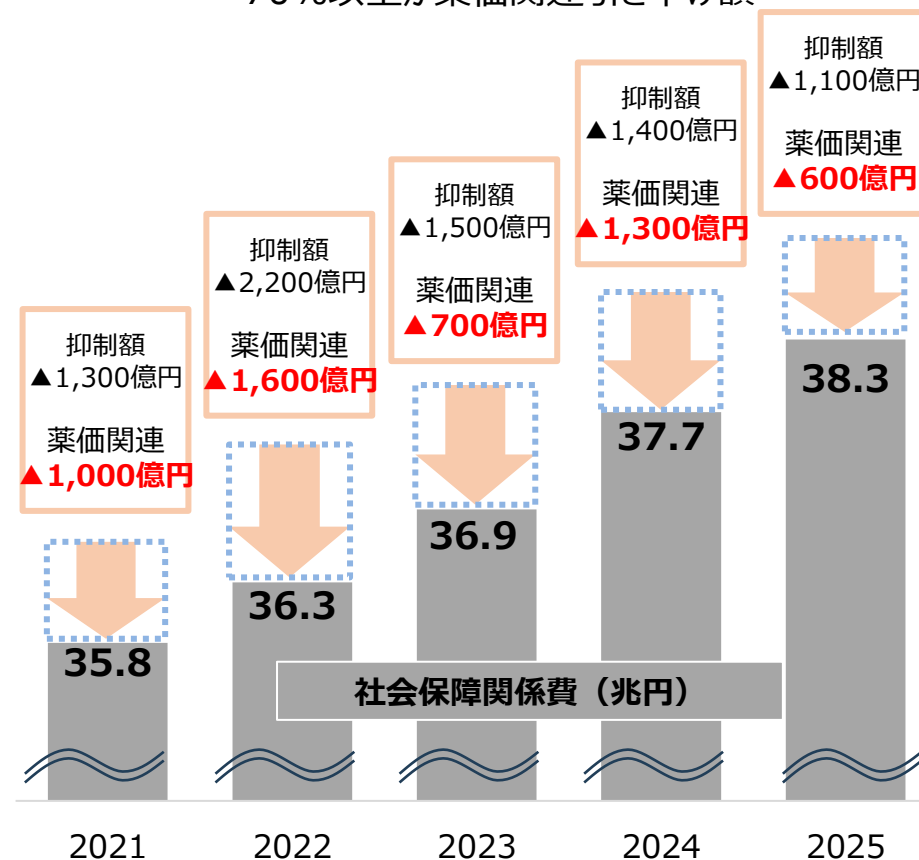
社会保障費の現状

社会保障予算は
高齢化の伸びの分だけ許容



薬価関連施策による抑制効果

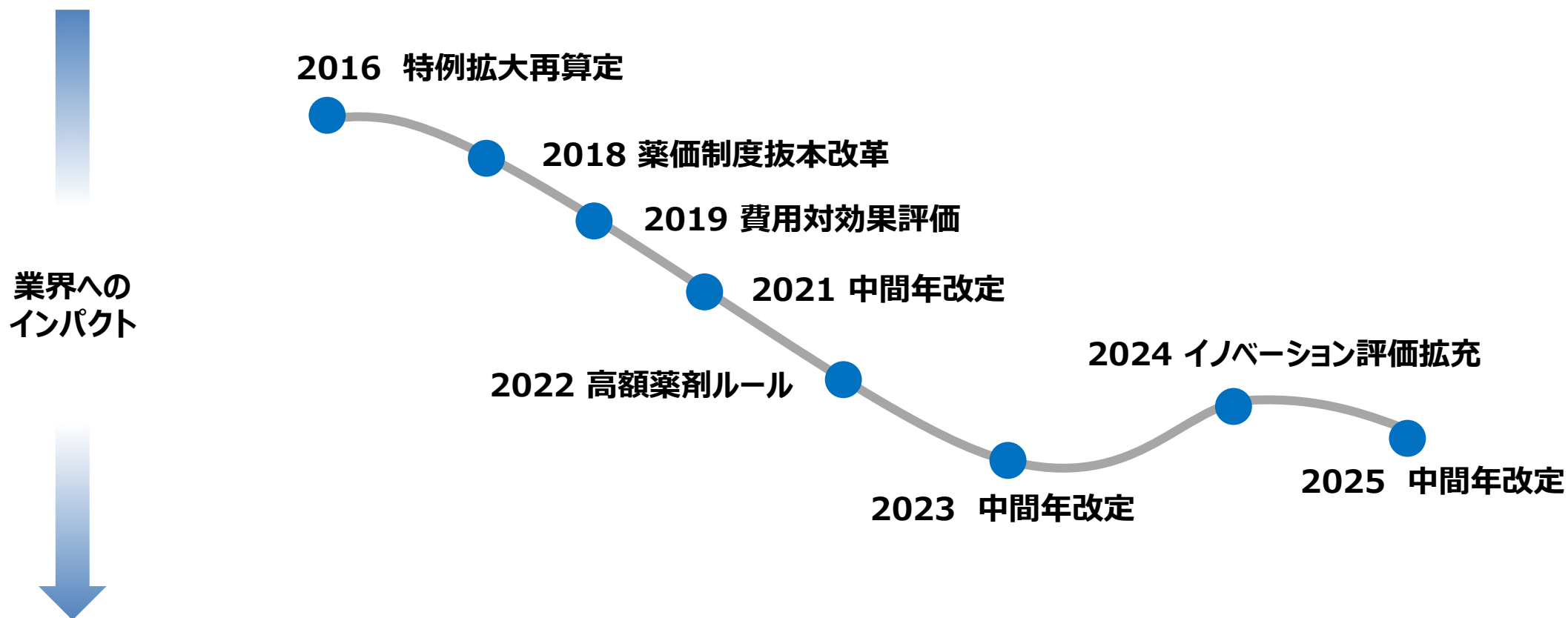
社会保障削減額のうち
70%以上が薬価関連引き下げ額



予見可能性

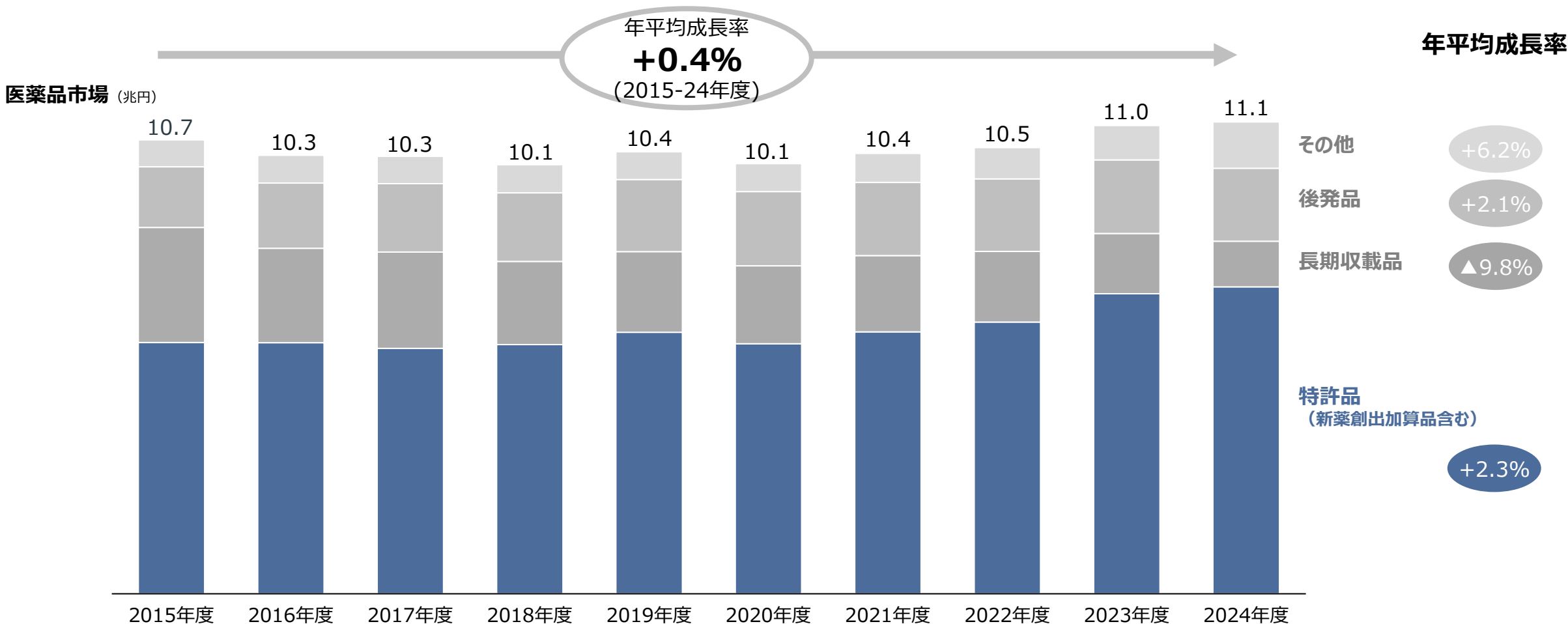
2016年以降の多様かつ不規則な制度変更実施により、日本への投資魅力度は低下

薬価政策による業界へのインパクト



製品カテゴリ別医薬品の売上金額

2015年から10年間で日本の医薬品市場はほぼ横ばい



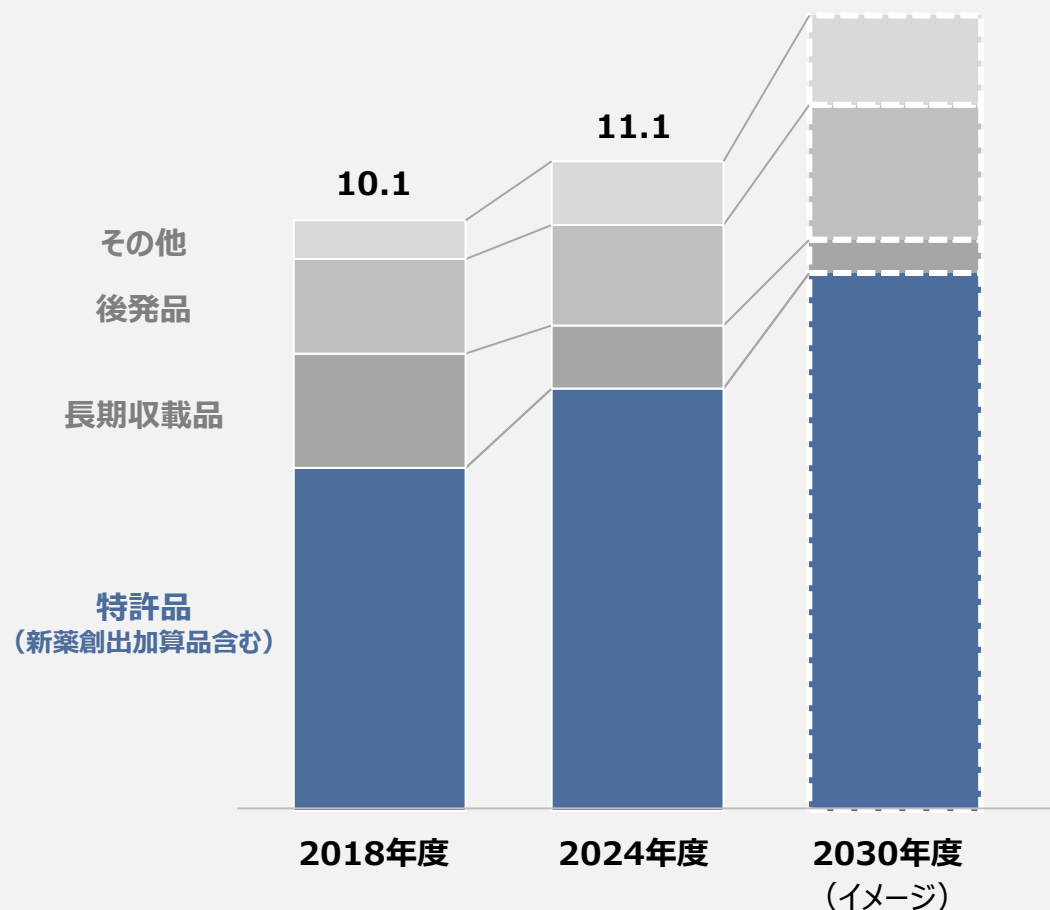
医療の高度化を反映した国際競争力のある医薬品市場へ

革新的な医薬品の創出によって全世代の健康に貢献する

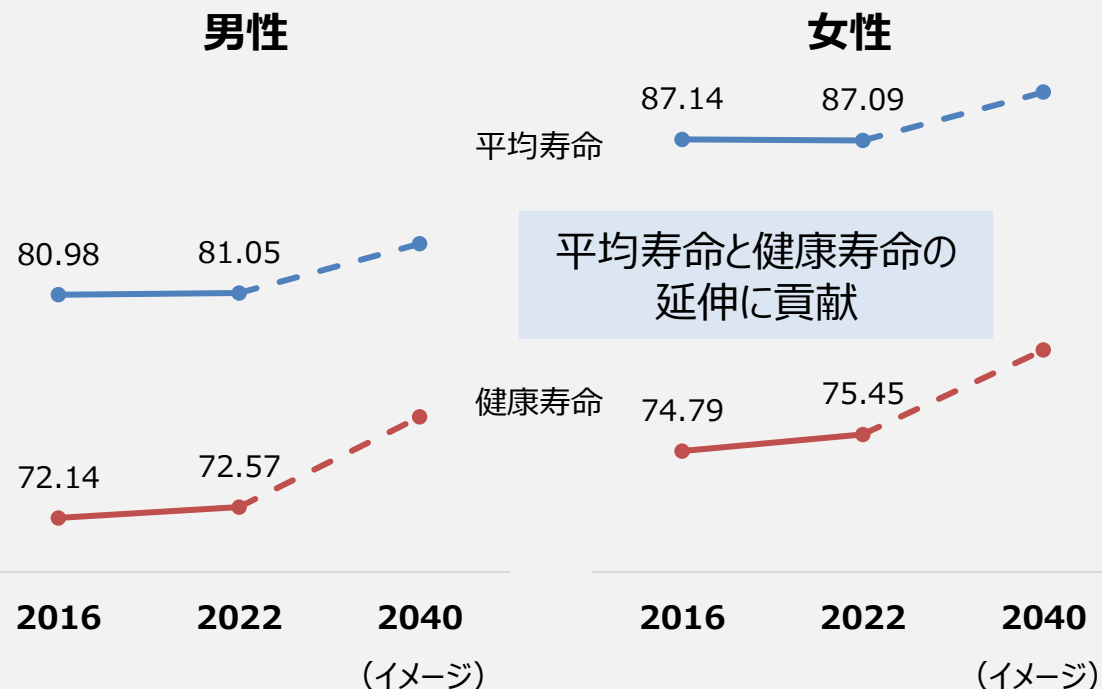
全世代の健康に貢献

- 治療手段の乏しい疾患への投資拡大により健康に貢献
 - ・ 小児用治療薬の研究開発
 - ・ 希少疾病用医薬品の開発 etc..

医薬品市場¹ (兆円)



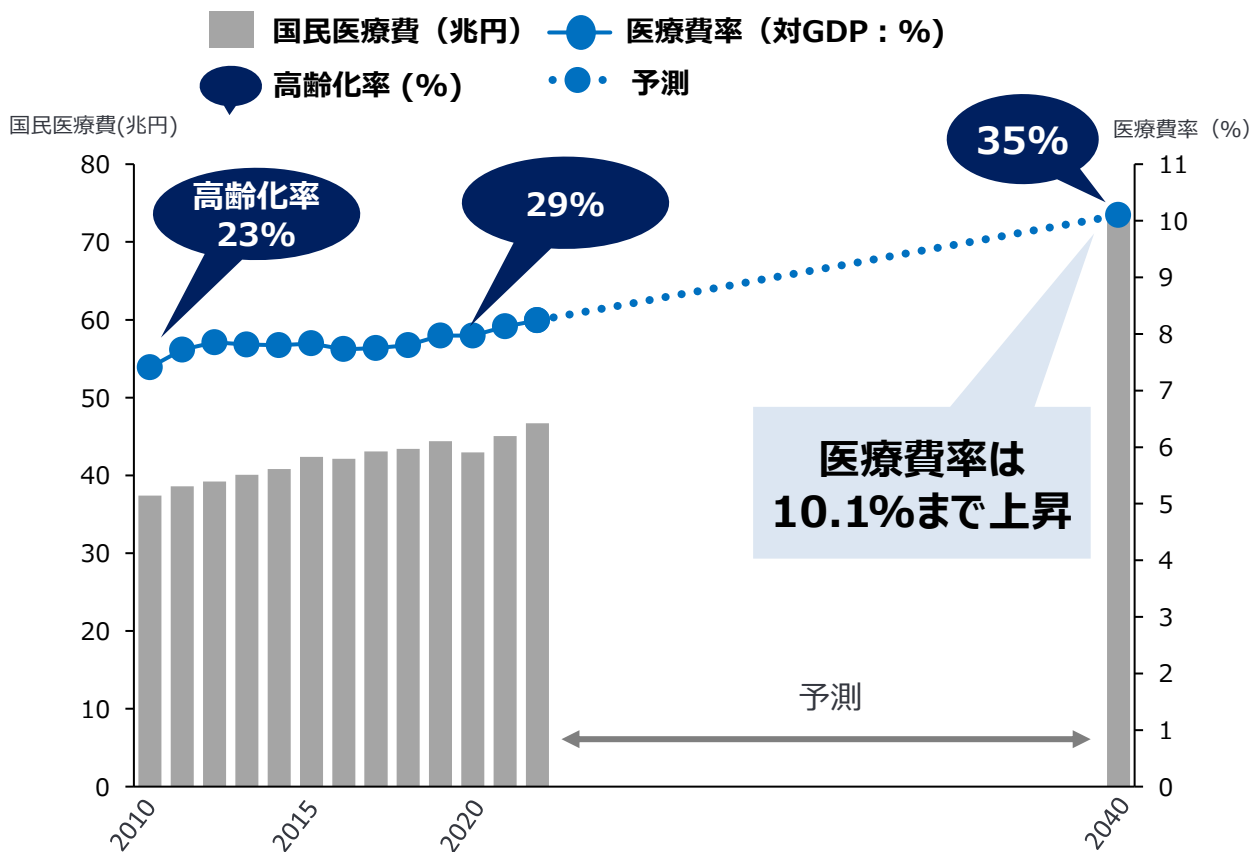
平均寿命・健康寿命² (歳)



持続可能な社会保障制度の実現に向けて

“医療の高度化”、“物価動向や賃上げ”への対応だけでなく、
医療DXによる医療全体の効率化と価値の再配分が必要

医療費の増大



目指す方向性

医療全体の効率化と価値の再配分
(医療DX等の利活用)

- 医療の高度化の反映
 - ➡ 革新的新薬の創出加速
- 経済・物価動向、賃上げ等への対応
 - ➡ 事業の健全性や安定供給の確保
- 最近の税込増加状況、など



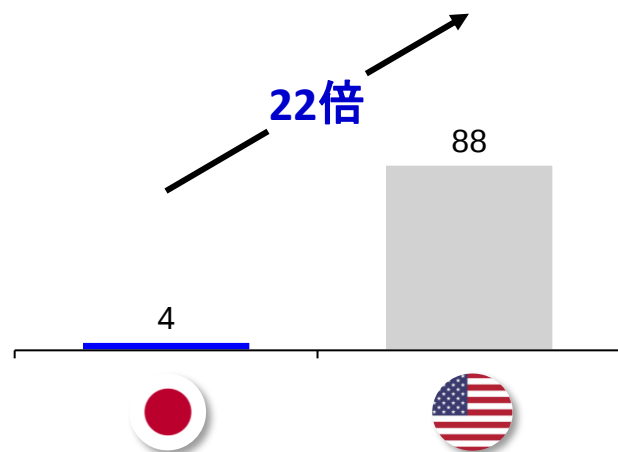
日本の医療DXの活用状況

企業・医療機関・国民のいずれにおいても医療DX促進の余地が大きい



製薬企業

RWDを活用した新規承認件数¹
(厚生労働省・FDA、承認件数、2021-22)

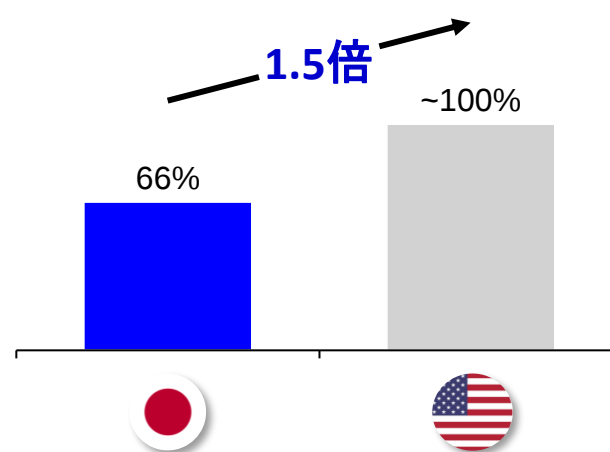


- データ標準化・共有のプラットフォーム整備の遅れ
- データ利活用のノウハウ不足 等



医療機関

電子カルテ普及率
(一般病院、導入率、2023)

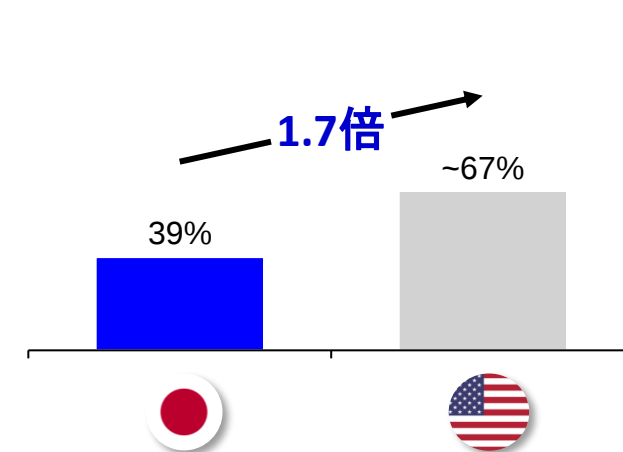


- 導入による経済的・業務的負担が大きい
- 導入へのインセンティブ不足 等



国民・患者さん

健康管理にデジタルツールを活用している割合
(20-60代、利用率、2023)



- デジタルツール活用に対するメリットの理解不足
- IT・セキュリティリテラシーのバラつき 等

医療DX
(データ活用)
状況

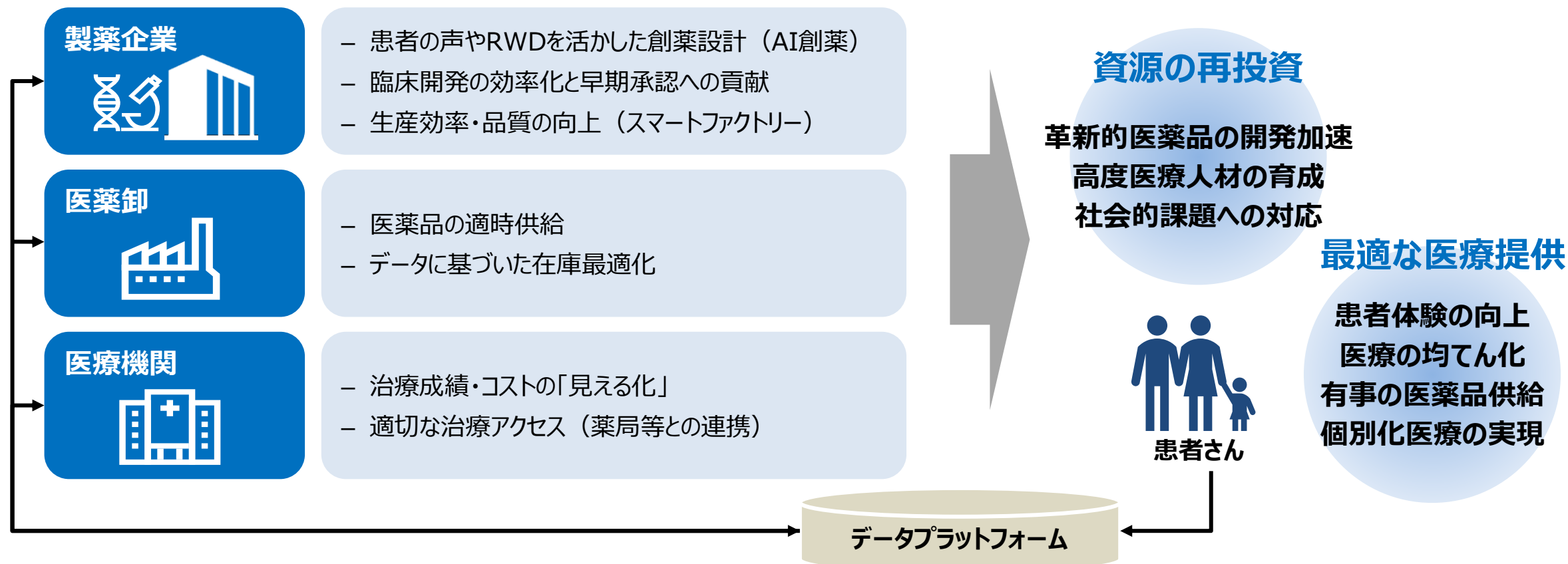
要因

医療DXによる効率化と価値の再配分

より価値の高い医療・医薬品への再投資と国民・患者さんへの最適な医療提供を実現

医療・医薬品産業の変化

国民・患者さんへの効用



アクションプラン（～2026年）

ステークホルダーとの対話を通じた役割の明確化を行い、価値共創に向けた取組を推進

Co-creation（共創）

製薬協の取組

実現したいこと

創薬

製薬業界からアカデミア・AMED
へのノウハウの提供

官民対話を通じた投資・
シーズ誘致の着実な実行

日本特有の
創薬エコシステムの強化

生産

バイオ医薬品、新規モダリティの
生産体制整備の検討

生産における
バイオ人材の育成

主にバイオ医薬品を
対象とした生産機能誘致

制度

製薬内外ステークホルダーとの
財源に関する共通課題解決

薬価に反映すべき
革新的新薬の価値の議論開始

予見性改善と医薬品の価値
に応じた薬価制度

国際的知財保護・
知財施策の推進

審査報告書の充実
ASEAN諸国とのリライアンスパス

グローバルの規制調和

主幹組織立上げとステーク
ホルダー横断の議論の実施

医療DXの全体構想・
実行計画の策定

新しい財源再配分モデルの
導入方針の策定

明確な
役割分担



医療DX

1

はじめに

2

就任抱負

「価値共創」～日本国民と目指したいヘルスケアの未来～

3

「継承」と「変革」

～製薬協のビジョンを未来へ～

継承と変革：ビジョン実現のために

－製薬協産業ビジョン2035－ 「我が国、そして世界に届ける創薬イノベーション」

01 ▶ Innovation

イノベーションを継続的に創出し、健康寿命の延伸とともに我が国の経済成長に貢献する

02 ▶ Access

国民に革新的新薬を迅速に届け、健康安全保障に貢献する

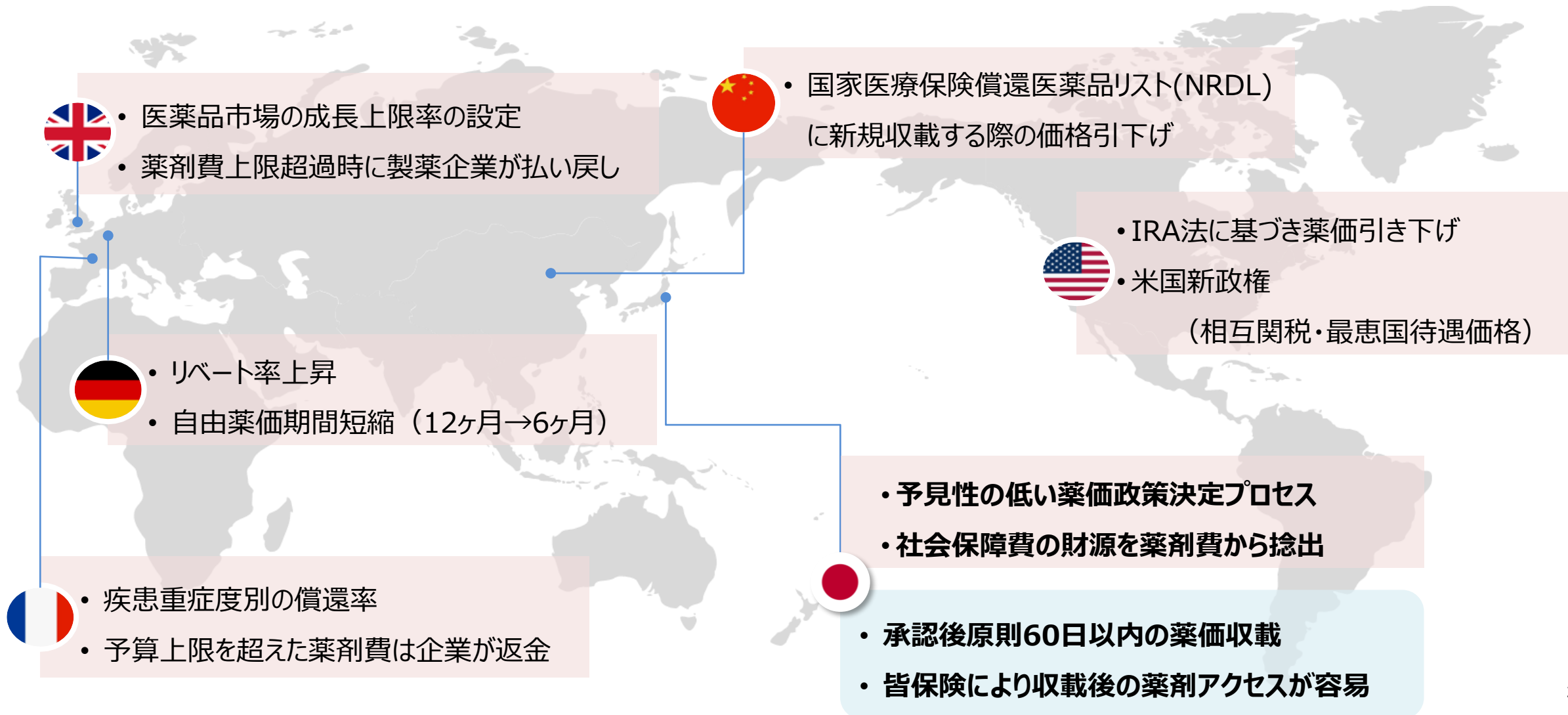
03 ▶ Trust

倫理観と透明性を担保し、社会から信頼される産業となる

製薬協産業ビジョン2035の実現に向けて、
「Co-creation」と「**変革**」を通じて取組を更に加速させる

新たな「健康」、「経済」、「社会」価値の共創につなげていく

各国で医薬品市場環境の厳しさが増す中、日本には投資を呼び込める機会がある



足元の課題への対応

前提となる財源コントロール

- 社会保障関係費における**シーリングの拡大**

革新的新薬の価値評価

- 類似薬のない**革新的新薬の新たな評価**の仕組み
- 新薬創出等加算対象品の**薬価維持**
- **市場拡大再算定**の特例の廃止
- **費用対効果評価制度**の抜本的な見直しの議論開始

ドラッグラグ・ロス解消への取組

- 顕在化しているドラッグ・ロス品目の解消に向けた**政府と一体となった取組**

超高齢社会における持続可能な「日本型医療モデル」のグローバル発信をめざして

革新的新薬の開発と投資の好循環
を生み出すエコシステム

人々の健康・経済成長・財政運営の
均衡がとれた薬事・薬価制度

高品質な医薬品を
安定的に供給できる生産体制

医療DXによる効率化と
価値の再配分





製薬協